



弦楽器が奏でる波形を調べてみると、とても複雑でそれを正確に再生することは不可能に近い——と感じてしまいます。人の声も同様。中・高音の周波数特性もさることながら、位相特性をきちんと合わせてやらないと弦楽器の弦楽器らしさ、人の声ならばその人らしさが出てきません。コンデンサー型ならば、ダイナミック型と違って振動体(膜)全体を同時に駆動できますから、位相のみだれが起きにくい。また振動体が極めて軽くてできるので動きだすべきときに動きだし、止まるべき時に即座に止まる——ことができます。打楽器の叩かれた瞬間のパルスをナチュラルに再生しようとすれば、振動体の重量が軽いことのいかに大切かお分りいただけると思います。スタックスのELSシリーズに採用されている振動膜は1000分の数mmという極薄のポリエステルフィルムですからその質量は数グラムにしかありません。さてコンデンサー型スピーカーに必要な高電圧の信号はELSシリーズでは良質のカットコアを用いて作り出されます。シリーズ共通の800VAのコアに巻かれている線材はPC-OCCという、いま手に入る線材の中でも最も優れた純度の高い銅線を選び、特製のポリカーボネート製ボビンに丁寧に巻いて仕上げられています。スピーカーの内部配線にもPC-OCCが採用され、音に有害な「ロス(損失)」を極力減らしています。周波数特性や位相特性を整えるために用意されたネットワーク回路にも特別製の抵抗や、ドイツ製ポリプロピレン・コンデンサーなどが随所に採用され良い音に仕上げる大切な役割を果たしています。ダイナミック型スピーカーに飽き足りず、ナチュラルな音、長時間聴き続けても飽きない音を求めている方々にぜひともスタックスのELSシリーズの音を再認識していただきたいと思っています。

音の翼の新素材。

